

あいさつ運動の好事例

瀬戸内市立牛窓西小学校
(児童数83名 教職員数17名)

あいさつの輪が広がる ～学校・家庭・地域との連携を通して～

アピールポイント

学校・地域・家庭が連携する中で、児童一人一人のあいさつを称賛することで自己有用感を高め、意識の変化につながった。

実際の様子



取組の概要

■児童生徒の実態

素直で明るい児童が多いが、児童数も少なくクラス替えもないため人間関係が固定化しやすく、あまり面識のない地域の方や保護者の方などに対しては、コミュニケーションにおいて消極的な面がみられる。

■活動内容

- ・ 毎朝、地域の方が見守り登校をしながらあいさつ運動に取り組んでいる。
- ・ 毎月10日・25日に瀬戸内市職員・保護者・教員が3か所のポイントに立ち、あいさつ運動に取り組んでいる。
- ・ 児童自ら学級で「あいさつ運動隊」を結成して、各クラスにあいさつ運動にまわっている。
- ・ 運営委員会が企画し、児童一人一人のあいさつの様子を班長から聴いて、よくできていた児童を昼の校内放送で称賛するとともに、あいさつマスターとして全校の前で表彰している。表彰された児童は、「うしにゃんキーホルダー」をつけてあいさつマスターとしてがんばっている。

■取組の参加メンバー

教職員、児童、保護者、瀬戸内市職員、地域見守り隊、地域住民など多数が参加。

■成果・効果

気持ちよいあいさつを交わし、そのあいさつを日々称賛する中で、自己有用感も高まり自然とあいさつやコミュニケーションの輪が校内だけでなく地域にも広がりをみせている。